

平成 31 年度第 1 回江南市子ども読書活動推進計画策定委員会議事録

日時 平成 31 年 4 月 24 日（水） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 20 分

場所 市役所 2 階 大会議室

出席委員 8 名

菱田 幹生	教育部長
可児 孝之	生涯学習課長
夫馬 靖幸	教育課主幹
平野 勝庸	健康づくり課長
鵜飼 篤市	こども政策課長
大島 里美	保育課長
辻中 憲一	指定管理者江南市立図書館館長
土井 紫	市民公募

欠席委員 2 名

伊藤 勝治	教育課管理指導主事（統括幹）
石原 香蔵	北部中学校校長

議事

1. 教育長あいさつ 委員長あいさつ

2. 協議事項

(1) について

【事務局説明】

- ・計画策定の背景・目的・基本方針など
- ・アンケート調査について
- ・今後のスケジュール

【質疑、意見等】

委 員：第 2 次子ども読書活動推進計画のアンケート調査について、小学生用のアンケートについては平易な言葉で作成をするのか。

- 事務局：(小学生用のアンケートは、計画書内では他の学年と合わせた表記になっているが) 実際に配布したアンケートでは、2年生には平易な言葉やひらがな表記、5年生には読み仮名でわかりやすく作成をしている。
- 委員：前回のアンケートでは、小学5年生以上にはあって、小学2年生にはない設問(1週間にどのくらいの時間、本を読みますか? 1か月にだいたい何冊の本を読みますか? 夏休みの間に、だいたい何冊の本を読みますか?)があったが、これらの設問は2年生でも答えることができるのではないか。
- 事務局：ワーキンググループで検討する。
- 委員：アンケートでは、紙媒体ではなくインターネットや電子書籍での読書がどれくらいあるのかがわかる項目があるとよい。
- 委員：年長には保護者へのアンケートになるが、保護者が電子書籍をどのようにとらえているのか、紙媒体のものを積極的に読ませたいと思っているのか、そうではないのかも調査してほしい。
- 委員：小学校の低学年は、毎週最低でも1回は、学校の図書室に連れて行って本を読んだり借りているので、それだけで1週間で10冊程度は読んでいることになってしまう。その分も読書数に含むと、当然小学2年生は他の学年に比べて読書量が多くなる。どこまでを「読書」としてとらえるのかを実態を踏まえて定義し、設問に反映してほしい。
- 委員：江南市の小学校では部活動がないので、前回のアンケート項目の「本をほとんど読まない」理由の選択肢「部活などで忙しいから」は内容を変更した方がよいのではないか。
- 事務局：前回の小学生用のアンケートでは「部活やスポーツ少年団で忙しいから」となっていたので、内容を検討する。
- 委員：前回のアンケートでは、「本をほとんど読まない」理由の選択肢に「まんがや雑誌のほうがいいから」という項目があったが、漫画を読むことは子ども読書活動における「読書」には含まないのか。読書をより身近なものにするためにも、子どもの意識の中で漫画を排除しない方がよいのではないか。
- 委員：前回のアンケートでは、「どんな本が好きですか?」という設問の選択肢に「学習まんが」という項目がある。「学習まんが」は漫画に含まないという考え方なのか。
- 委員：市立図書館では、「学習まんが」は一般の漫画とは区別をしている。
- 事務局：国や県などの上位計画における漫画の扱いを確認した上で検討したい。
- 委員：アンケートの質問内容のとらえ方が人によると思われるので、小中高校生については、学校にいる時間にアンケート記入の時間を取る方法もよいのではないか。

【第1回江南市子ども読書活動推進委員会 終了】